

「観光で沖縄を変えていこう」

那覇市立那覇小学校 5年生 にしごと 西里 みさき 美咲

ハイサイ。私は那覇小学校の五年生です。那覇小学校は、国際通りにとっても近い学校で、私の家も牧志にあり、国際通りに、徒歩三分くらいで着きます。

私はよく、家に近いドンキホーテやダイコクドラッグなどに行きます。すると外国人観光客がとてつぱいいることに気がつきました。それに、観光客せん用のレジもあってとてつぱいびっくりしました。

その時、お母さんが「日本人が約一億人、中国人はその十倍の十億人もの人がいるんだよ。」と教えてくれました。

この前、その中国の方が、私に英語で「ウェア イズ ダ ステーション」と道をたずねてきました。でも、私は英語をしゃべることができません。そこでジェスチャーなどで表してみましたが、中国の方は首をかしげるばかりで、最後はごめんなさいという顔をして「ソーリー。」と行って去って行きました。

私は、申しわけないという気持ちでとてつぱいになりました。なぜなら、道案内もできなかったし、英語をしゃべれないというだけで、沖縄のよさやいい所を教える人の数がへるからです。

私達は子供ですが、沖縄のいい所はとてつぱいよく知っています。例えば、一人が三個、沖縄のいい所がいえるとします。そうすると、英語を一人しゃべれないだけで、沖縄のいい所を外国人観光客に伝えるとき、一個も沖縄のいい所が伝えられないことになります。

もし、他の人たちも、こういう事を考えたとすれば、みんな、「海」というキーワードが頭にうかぶのではないのでしょうか。しかし今、沖縄の海が辺野古基地の建設によって、はかいされようとしています。沖縄の美しい海に基地をつくることは、私は絶対にいやです。基地の存在で、お母さんが前に話していた、二〇〇一年の同時多発テロのときのように、沖縄のアメリカ基地にもテロを起こすような人たちがせめてくるかもしれない、という不安感で観光客が減るかもしれません。

沖縄の人たちの生活は、基地によって、安定しているという人もいますが、私は三線や英語をがんばって覚えて、沖縄のよさをアピールし、たくさんの観光客が、沖縄にきてくれることによって、観光で基地のない平和な沖縄に変えていきたいです。

「I LOVE 沖縄」

私の大好きな沖縄がいつまでも、平和で美しい島でありますように。